

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <学校運営>

岐阜県立羽島北高等学校 学校番号 6

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標		「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。																	
2 評価する領域・分野		◇学校経営																	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等		・学校の教育方針・指導内容について概ね理解が得られている。 ・個に応じた学習指導や、生徒が自らの可能性の伸長を実感できる取り組みを提供する必要がある。 ・地域と連携した探究活動の意義を生徒が感じられるようにしたい。																	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標		・ICT活用による授業改善を推進する。 ・地域課題探究型学習を推進する。 ・教職員の働き方について見直しを進める。 ・コロナ禍に対し感染予防対策を適切に実行する。																	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制		企画運営委員会、各種アンケートの実施 管理職による各分掌長や主任、個々の教員への聴き取り調査																	
6 目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																	
(1) ICTの活用などによる、個に応じた指導方法の開発 (2) 地域課題探究型学習の展開 (3) 職員の時間外労働時間の縮減 (4) 新型コロナウイルス感染予防対策		(1) 授業に対する生徒の評価 授業評価アンケートや生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果 (2) 生徒の主体的な取組状況 (3) 出退勤簿の記録・年休取得状況 (4) 感染者の発生状況																	
8 取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評 価																
①授業改善に全校体制で取り組む。 授業でのICT機器の活用や、アクティブラーニング、課題発見解決型学習の導入。 ②地域課題探究型学習を、外部機関の協力を得ながら推進する。 ③時間外勤務の縮減の仕組みを作り、年休取得推進の呼びかけを行う。 ④新型コロナウイルス感染予防策を学校全体で実施し、情報は即座に共有する。		①授業の質を上げる効果的方法の共有化が実施できたか。 ICT活用が進んだか。 ②生徒が積極的に参加したか。 ③職員の時間外勤務が減少したか。年5日以上が取得されたか。 ④校内で基本的対応が徹底できたか。	<table><tr><td>☒</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>A</td><td>☒</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>☒</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>☒</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr></table>	☒	B	C	D	A	☒	C	D	☒	B	C	D	☒	B	C	D
☒	B	C	D																
A	☒	C	D																
☒	B	C	D																
☒	B	C	D																
11 成果・課題	○授業改善への取り組みは、休校期間のWEB授業の展開、メタモジの導入など、必要に迫られて急激に進展した。1人1台タブレットの整備など、ICT機器の整備も進み、校内ではICT活用推進チームを発足させ、具体的に授業で利用するところまで進めた。個を伸ばす授業、個々の可能性の伸長を実感できる授業への改善を今後さらに進めたい。 ○昨年度スタートした「地域課題探究型学習」は、コロナ禍の中、アクティブラーニングやフィールドワークができない状況で行き詰まった感があったが、できることを模索し、展開することができた。 ○時間外勤務は昨年より大きく減少し、また、短時間非常勤講師を除く全職員が年5日以上が年休を取得した。勤務時間制度も活用できた。 ○校内での感染予防の対策は、マスク着用、手指の消毒など徹底して行えた。		総 合 評 価 <table><tr><td>☒</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr></table>	☒	B	C	D												
☒	B	C	D																
12 来年度に向けての改善方策案																			
・授業改善については、WEB活用、メタモジなどの活用で生徒が自らの課題を発見し解決するというスタイルを展開する。 ・「地域課題探究型学習」と「ゆいまーるプロジェクト」を羽島北高の『ふるさと教育』の柱として地域機関との連携、地域の教育力の活用を推進する。 ・教員の心と体の健康を守るための仕組みを整備する。																			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月18日

地域課題探究型学習など、社会に貢献できる人材の資質を養う優れた取組が展開されている。地域と協働していくことで、さらなる発展が期待できる。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <教務>

I 自己評価

1 学校教育目標	「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教務	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	学習指導に関する保護者の評価は、今年度はすべての項目で上昇に転じた。その中でも、「学校は、できるだけ選択授業や少人数授業又はオンライン授業を行い、生徒の理解を高めようと努力している」(+16.2%)や、「授業や家庭学習への指導・支援等をとおして一人一人の能力に応じた指導を行っている(+11.0%)と高い評価を得られた。単位制となってカリキュラムを大幅に改変し、生徒個々の進路希望に沿った学びが実現されたことや、コロナ禍での休校中においてもオンライン学習支援を行ったことなどが高評価につながっていると考え。来年度は生徒一人一人に対しタブレット端末が貸与され、各教室にICT環境が整備されたこともあり、課題探究的な授業内容やグループ学習・ペア学習などを積極的に取り入れさらに一層個々の能力を引き出せる授業形態を推進していきたいと考える。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・単位制の学校設定科目をはじめとして生徒が興味・関心を持って学習に主体的に取り組む授業について研究する。 ・ICT機器の活用を中心としたアクティブラーニングを実践する。 ・少人数授業に対する生徒の肯定的評価を一層高める。 ・生徒個々に応じた課題の提示と家庭学習時間の増加を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教育課程委員会、LHR・総合学習委員会 ・学習指導委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 教育課程委員会をはじめ各教科会を定期的 に開催し、研究と協議を行う。 (2) 授業力の向上を目指すとともに、少人数授業 の効果的な運用方法や指導方法の研究に努める (3) 到達度確認テストを実施し、結果の分析をも とに、休校中の学習の遅れを取り戻し、基礎・ 基本的な学習内容の確実な定着を図る。	(1) 単位制に向けた生徒にとって魅力ある教育課 程の編成ができたか。 (2) ICT機器等を利用した授業を通じて、アクテ ィブラーニングを意識した授業改善を図ることが できたか。 (3) オンライン学習支援や到達度確認テストに意 欲的に取り組むことができたか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①教育課程委員会や各教科会では、来年度の教育 課程のあり方や授業実践の方策を見直すとともに、 令和4年度の新教育課程に向けた研究と協 議を行った。 ②ICTを利用した授業研究を通して生徒の主体的 な活動を重視する授業に取り組むことができた ③研究授業の実践により、授業改善の研究を進め た。	①単位制としての特色ある教育 課程を実践できたか ②ICT機器等を利用した授業改善 はできたか ③休校に伴う学習の遅れを取り 戻し、基礎・基本的な学習内 容の定着を図ることができた か。	(A) B C D (A) B C D A (B) C D

11 成 果 ・ 課 題	○教育課程委員会では、令和4年度からの新教育課程について検討し、魅力ある単位制普通科高校としてさらに一層充実させることができるように検討を重ねた。特に実務面においては、単位制における考査のあり方や評価のあり方、時間割のシミュレーションや使用教室の割り当て、タブレット端末を使った授業研究などを行った。また、教科会では、単位制の学校設定科目の授業の具体的な内容や進め方について検討した。 ○ICT機器を利用した研究授業や教科の枠を超えた授業参観、教科会等を通じて授業の改善に取り組んだ。 ▲各教科が中心となって、生徒の実態に即した授業における課題の設定をおこなうとともに、より一層生徒が主体的に授業に取り組むような授業のあり方についてさらに研究を進める。 ▲家庭学習時間調査については、今年度コロナ対応を優先して行ったため実施することができなかった。来年度からは、基礎学力をしっかりと定着させるためにもキャリア教育等を通じて学習に対するモチベーションを高め、家庭学習に主体的に取り組ませる必要があることから、昨年度同様に計画的に実施したい。	総 合 評 価 A (B) C D
12	来年度に向けての改善方策案 - 各教科を中心にICT機器を利用したアクティブラーニングを積極的に推進していく必要がある。そのために、研究授業や公開授業を効果的に実施するとともに、他校での授業を視察するなどしてアクティブラーニングに関する研修会等を積極的に実施する。 - 総合的な探究の時間においては、進路学習と課題探究学習の2つを大きな柱とし、進路実現に向けたキャリア学習や地域課題への取り組みや外部講師による講演会、国際理解など幅広いテーマについても生徒が主体となって深い学びが可能となるような指導計画を策定する。 - 家庭学習については、タブレット端末を効果的に使用し、教科が中心になって生徒の学力状況に応じた課題を提示し、生徒個々が進路実現できるように適切なアドバイスを行い習慣化するようにする。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月18日

<学習指導について> (ICT機器活用については)それぞれの家庭のWi-Fi環境の格差の問題がある。 - 従来の階層に分けられてきたのが高校だったが、昨今は地域の幅広い階層の生徒が入学してくる。教員が新しい方法を工夫・研究していくべき。 <課題探究学習について> - 柔軟な発想力を育むためにはどうしていったらよいか課題である。 - 知恵が大事であるが、知恵とは知識と経験から生まれ出る。高校生はまだ経験が浅いのでなかなか難しいだろう。 - どんな形でもよいので、今後も、生徒たちで話し合う機会を大いに作ってほしい。SDGsや人口減少など今の高校生はこんな考えを持っているということをYouTubeなどで発信してはどうか。企業や社会、親たちも知りたいがっている。 - 問題解決学習は、見る世界を広げるという意味でよい。もう少し興味あるテーマを学校側が設定してやるとよい。解決することよりもそれを考えるプロセスが大切と考えるならば、様々なテーマが考えられる。 「生徒自ら身近な課題を探して…」というが、実際はなかなか難しい。今の子どもたちはこのような教育を受けてきていないので酷ではないか。そう考えると、少しは教員側がテーマを絞ったり、ヒントを与えたりすることも必要かもしれない。
--

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <進路指導>

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標	「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。
---------------	---

2	評価する領域・分野	◇進路指導		
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「適した進路情報の提供」では、生徒70.9%が肯定的な評価であった。「希望に沿った進路指導」でも73.2%が肯定的評価であった。今後も生徒一人一人に沿った進路支援を丁寧に行っていきたい。 ・「進路情報の提供」「生徒個々に応じた学習指導」に対する保護者の評価は、コロナ対策の影響による支障のためか、やや昨年に比べ減少したが、概ね満足されている。引き続き、適切な進路指導や質の高い指導を研究・推進していく。 ・総合的な探究の時間を活用した、キャリア教育の充実と推進に努める。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・キャリア教育を段階的に進め、社会で自己を生かすために主体的に努力できる人材を育てる。 ・卒業時に進路目標が実現できるよう学力の定着と伸長を目指す。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・総合的な探究委員会 ・教育課程委員会 ・進路指導部会 ・3年学年会 ・研究推進部会		
6	目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)キャリア教育の計画及び実践（総合的な学習・探究の時間を中心に展開） (2)学力の定着（補習、外部模試） (3)進路情報の提供（進路便り、各種ガイダンス） (4)進路相談の充実と支援体制の強化		(1)生徒一人一人の将来を見据えた進路指導の充実と生徒の満足度の向上 (2)学力の向上と進路目標の実現 (3)時期や内容を考慮した各種ガイダンスの実施 (4)進路指導に対する肯定的評価の向上		
8	取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評価
11 成果課題	○3年生の総合型・学校推薦型選抜の受験希望者の増加により、面接・小論文・志望理由書作成等、より実態に即した丁寧な進学指導に力を入れた。 ○1年生の進学フェスタ、2年生の大学模擬授業などメインの進路行事がコロナ感染症の影響により中止となったが、進路講演会や各種ガイダンスなどはオンラインで行うなど、できる形で工夫して実施することができた。 ○3年学年会との連携を十分に行之、詳細な打ち合わせを重ねることによって複雑な入試制度に対応することができた。 ▲「大学入学共通テスト」を始め、今後の大学入試改革について、正確な情報を収集し、職員や生徒に伝え、指導に生かしていく必要がある。		①進路学習が有効に行われ進路目標が実現できたか ②学力の向上に役立ったか ③進路選択に資することができたか。 ④適切に進路指導を行うことができたか。	A ② C D A ② C D A ② C D ① A B C D
				総合評価 A ② C D
12	来年度に向けての改善方策案 ・大学入試改革の動向及び本校における総合型・学校推薦型選抜希望者の増加に対応するため、引き続き入試制度の周知徹底や面接・小論文対策等の充実を図っていく。 ・単位制移行による、生徒の希望進路先の広がりに対応できるような指導を研究していく。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月18日

・生徒の学力差、能力差が広がっている現状において、新しい指導法を考えていく必要がある。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <生徒指導・教育相談>

I 自己評価

1 学校教育目標	「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育てる。 (3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・マナー指導については、生徒・保護者とも肯定的評価が多い。 ・いじめや差別に対する指導については、生徒は肯定的評価が多くみられた。一方で、保護者は「わからない」という評価が多く、いじめ・差別への対応の難しさを感じる。今後は、保護者への発信を積極的に行って理解を得ていきたい。また、これまで通りきめ細やかな配慮のある迅速な対応を心がけ、ひとつひとつの問題に丁寧に対応する必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・朝の登校指導（挨拶・交通安全）の継続的实施（MSリーダーズによる活動の活発化） ・教育相談・学年・保健室と連携し、問題を抱えている生徒への支援 ・いじめの未然防止と迷惑行為の早期対応 ・ユニバーサルデザインの制服導入・多様化する生徒の支援	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・クラス担任・学年会・生徒指導・教育相談の緊密な連携 ・管理職への迅速な報告	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 朝の校門・昇降口での挨拶・交通安全指導（含MSリーダーズ） (2) 教育相談・学年会・保健室・HR担任との緊密な連携と支援計画づくり (3) いじめ未然防止に向けての取り組み	(1) 昨年度までの統計との比較 〔問題行動・遅刻・交通事故の減少率〕 20%以上：A 0%以上：B -10%以上：C -10%未満：D (2) 教育相談アンケートの実施 〔教育相談アンケート実施回数〕 8回以上：A 5回以上：B 3回以上：C 3回未満：D (3) 全校体制によるいじめ未然防止 〔いじめ対策や人権についての生徒・保護者の指標〕 60%以上：A 50%以上：B 40%以上：C 30%未満：D	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 遅刻指導、挨拶指導、情報モラル・マナー指導 ② 交通安全委員会による交通安全活動 ③ 生活委員会による挨拶運動 ④ いじめ案件経緯メモの活用およびいじめ防止啓発LHRの実施 ⑤ 教育相談アンケートの実施	① 問題行動が減少したか。 ② 交通事故件数が減少したか ③ 1日当たりの平均遅刻人数は減少したか。 ④ いじめ問題や人権に対する指導は効果的であったか。 ⑤ 教育相談アンケートで生徒の声を把握できたか。	A (B) C D A (B) C D A B (C) D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○交通事故の件数は昨年度とほぼ同じであったが、不注意による事故や自損事故が多くみられたので、引き続き注意喚起を行っていく。 ○いじめ案件経緯メモを活用したことにより、いじりあいなど早めに注意することができ、いじめ未然防止につながった。 ○学校でのトラブルについては、迅速に保護者への連絡を行い対応することで、保護者の理解を得ることができた。 ▲遅刻については、前半、新型コロナウイルス感染症の影響で休校になった為、昨年度との比較ができなかった。後半は校門・昇降口での遅刻指導やあいさつ運動を行ったが、例年通り3年生の遅刻が急増してしまった。	
12 来年度に向けての改善方策案	・今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響でMSリーダーズなどの委員会活動が制限された。来年度は生徒主体の活動を活発化させ、生徒同士が高めあえる環境を作っていきたい。また、SNS上のトラブルがいじめや迷惑行為につながるケースもあったので、情報モラル教育を徹底していく必要がある。さらに、生徒心得（校則）の見直しを継続的に行い、制服の自由化も含め、制服のユニバーサル	
		総合評価 A (B) C D

デザイン化をすすめ、L G B T生徒への支援についてもより具体化していく。

・生徒や保護者の心の悩みが多様化する中で、スクールカウンセラーや相談員等の負担が増加している。今後は、生徒指導全体が生徒、保護者に寄り添う指導に切り替え、悩み相談がしやすい体制を整えていく必要がある。

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月18日

・いじめの指導に関する評価では、生徒の評価が高いのに対し、保護者の評価が「わからない」とする声が多かった。メール配信やホームページを活用し、いじめ問題への取り組みを発信していくとよい。

・高校生にとって挨拶やマナーが大切である。学校付近ですれ違った生徒が会釈してくれたので、非常に好感が持てた。日ごろの指導やMSリーダーズの活動を通して、挨拶やマナーをさらに徹底し、互いに高めあえる羽島北高校生になってほしい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <特別活動>

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標		「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。	
2 評価する領域・分野		◇特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等		・「授業以外の学習機会や学校行事の有無、又はその実施方法等について、生徒の安全を最優先とし、コロナウイルス感染症対策を講じて適切に計画している。」に対して生徒（81.1%），保護者（81.3%）がよい評価をしている。制約が多い状況下で生徒や教員が努力していると評価された。 ・本校の部活動に対しては、生徒（74.8%），保護者（69.5%）とよい評価を受けている。前年度より高い値である。 ・本校のボランティア活動については、生徒のニーズもあり、できるだけ参加機会を提供したかったが、校外での活動がほとんどできなかった。にもかかわらず、生徒（59.7%）保護者（50.8%）が「本校はボランティアの大切さを理解させ、活動機会を提供している」と評価してくださった。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標		・コロナ感染を防ぎながら、部活動と学校行事の一層の活性化を図ることにより、生徒の目的意識を高めると共に、主体的に取り組む姿勢を育成する。 ・ボランティア活動などを通じて地域連携を深め、社会の一員としての自覚を深める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制		・生徒会執行部，各種委員会，部顧問会議	
6 目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)学校行事の企画内容の見直しと生徒会における役割の明確化。 (2)生徒が主体的に取り組む部活動運営。 (3)ボランティア活動に対する意識の向上とボランティア活動への積極的な参加。		(1)学校行事に対する生徒と保護者，教員及び地域・学校関係者による満足度。 (2)部活動に対する生徒と保護者，教員及び地域・学校関係者による満足度。 (3)ボランティア活動に対する生徒と保護者，教員及び地域・学校関係者による満足度。	
8 取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評 価
①感染防止に配慮した学校行事の企画。 ②部活動の数や活動内容の精選。 ③新しいボランティア活動の方法を試行する。		①生徒が自ら考え、よりよい方法を考えることができたか。 ②部活動に対する取り組みが積極的になったか。 ③生徒が積極的に参加・協力できたか。	(A) B C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○新しい形で体育行事を企画できた。 ○生徒会が多くのアイディアに基づいて全校企画を行うことができた。 ▲感染拡大のために企画したものの中止に至った行事が多数あった。 ▲地域と関わる活動をほとんど提供できなかった。		総 合 評 価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・部活動の安全な実施方法を研究する。 ・生徒活動と地域探究活動をリンクさせる方法を研究する。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月18日

・今年度。コロナ禍の中で大きな制約を受けつつも、学校行事、ボランティア活動が工夫して行われていたことに、生徒の主体性を感じた。
・地域に出て活動する形はたくさんある。地域と学校の協力体制を一層進めていきたい。また、評価など生徒の動機づけにつながるようなものを出すとよい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <保健厚生>

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標		「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。	
2 評価する領域・分野		◇保健厚生	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等		・「生徒への安全や衛生面への配慮」に対し（72.7%）の比較的高い評価を得ている。 ・「地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者（地域）に対策マニュアルが知らされている。」の項目では、（92.2%）の非常に高い評価を得ている。 ・生徒対象の項目「清掃が行き届いており校内がきれいである」が昨年度より改善傾向がみられる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標		・健康・安全で活力ある基本的習慣の確立。 ・学習環境の美化・整備を通じて、環境への視点の育成。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制		・学校保健安全委員会（アレルギー対策委員会）・防災委員会 ・保健委員会・環境委員会・美化委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 健康診断後の事後指導 (2) 安全点検・校内美化活動の推進 (3) 命を守る訓練、津波防災の日、非常変災時における帰宅確認予行 (4) 新型コロナウイルス感染症予防対策		(1) 医療機関への受診率 (2) 施設設備の充実度・ごみ処理量の減少 (3) 地震や台風時の対応評価 (4) 感染者の発生状況	
8 取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評 価
①各種健康診断後の要受診者に対する医療機関受診への呼びかけ。 ②定期的な安全点検の実施。美化委員会を中心とした校内美化活動の実施。環境委員会によるゴミの減量化、分別回収、リサイクルの推進。 ③命を守る訓練・津波防災の日の実施。非常変災時における帰宅確認予行の実施。 ④県から示される新型コロナウイルス感染症予防対策のガイドラインに則した取り組みを学校全体で実施。		①各医療機関での受診率 ②安全面や衛生面への配慮ができたか。 ③訓練などをスムーズに行うことができ、定着してきたか。 ④学校全体で徹底できたか。	A ㊀ C D ㊀ B C D A ㊀ C D ㊀ B C D
11 成果・課題	○定期的な安全点検による安全性の確保。また、非常変災時における対応が周知された。 ○校内でのコロナウイルス感染症予防対策を、県のガイドライン通り行えた。 ▲コロナウイルス感染症拡大のため各種の健康診断が延期され、それに伴い要受診者に対する指導が遅れた。 ▲コロナ禍のため予定されていた訓練などが実施できなかった。		総 合 評 価 A ㊀ C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・健康診断の要受診者の保護者への周知徹底の仕方を考える。 ・訓練の実施方法や非常変災時における対応の見直しを図る。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月18日

【意見・要望・評価等】
・学校医との連携により、コロナウイルス感染症予防対策だけでなく、生徒の安全面や健康管理等を適切に実現できている。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <渉外広報>

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標		「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。	
2 評価する領域・分野		◇渉外広報	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等		・ P T A大学見学会：日程や訪問する大学などに関していろいろな要望がある。 ・ P T A研修会：入試や就職など生徒の実態にあった話をしてほしいという意見が多くあった。 ・ P T A総会：多くの保護者に出席してもらえよう工夫をしてほしいとの声がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標		・ 「P T Aだより」「学校案内」の紙面の改善・充実をはかる。 ・ 国際理解に関する教育を推進する。 ・ P T A各種行事の内容の充実を図るとともに、参加率を高める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制		・ 企画運営委員会、P T A運営委員会、学年会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 「P T Aだより」「学校案内」の内容の検討・充実を図る。 (2) 「国際理解プログラム」をより充実したものにする。 (3) ロックハンプトン高校を訪問するにあたり研修内容の充実と生徒や保護者への配信を積極的に行う。 (4) 各種行事の参加者を増やすために、保護者の意見を反映させ行事の充実を図る。		(1) 「P T Aだより」「学校案内」の紙面の充実 (2) 「国際プログラム」の内容の検討と充実 (3) (4) 「P T A総会」「大学見学会」「研修会」の内容の充実と参加率の増加 総会参加率 [25%以上A 20%以上B 15%以上C 15%未満D] 大学見学参加率[10%以上A 8%以上B 4%以上C 4%未満D]	
8 取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評 価
①「P T Aだより」「学校案内」の内容検討、内容の充実、デザインの改善。 ②「国際理解プログラム」の内容をしっかりと検討して、充実したものにする。 ③P T A各種行事への保護者の参加率をできるだけ高めるため、保護者が関心をもっているような講演や内容を企画する。		①「P T A便り」「学校案内」は、前年より紙面が充実したか。 ②国際理解プログラムは、生徒にとって充実したものであったか。 ③P T A各種行事への参加率が目標値に達したか。また内容的に満足のいくものであったか。	Ⓐ B C D A Ⓑ C D A B Ⓒ D
11 成果・課題	今年度はほとんどのP T A行事が、コロナ感染予防のため実施できなかった。そんな中、予定を変更して大学生を招いての「国際理解」の講演会をリモートで開催したり、「P T A便り」を部活動の記事を増やし、紙面を例年以上に充実させて発行できたことは、保護者・生徒により学校を知ってもらうよい機会となった。		総 合 評 価 A Ⓑ C D
12 来年度に向けての改善方策案 P T A行事に関しては、参加する保護者からの意見を取り入れ、多くの保護者に参加していただけるものにしていきたい。また、行事の案内を工夫して保護者の参加を促したい。今後も、P T A行事に多くの保護者が積極的にかかわっていただけるようにしていきたい。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月18日

【意見・要望・評価等】

総合的な探究の時間を活用しての国際交流やロックハンプトン高校との交流は、高く評価できる。今後さらに生徒が主体的に取り組める活動に昇華させていただきたい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <図書視聴覚>

I 自己評価

1 学校教育目標	「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇図書視聴覚	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「朝の10分間読書」の効果について、肯定的評価をした保護者が77.5%、生徒が78.8%であった。昨年度より保護者は8ポイント増加、生徒は1ポイント減少したが、高い評価を得ている。 ・「図書館の利用しやすさ」については、肯定的評価をした生徒が62.3%であり、昨年度より9ポイント減少した。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・教科・HRとの連携を図り、図書館利用を促す。 ・図書館環境の整備・充実に努め、読書に対する興味関心を高める。 ・「朝の10分間読書」の一層の充実を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・図書視聴覚委員会（年3回） ・生徒会図書委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 図書館利用促進のための広報活動。 (2) 図書館における授業・LHR活動の準備。 (3) 朝の10分間読書の推進。	(1) 図書の貸出冊数や来館者数を昨年度と比較。 (2) 授業・LHRでの図書館利用回数を昨年度と比較。 (3) 生徒へのアンケート。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①校内読書感想文・小論文コンクールの実施。読書週間のイベント企画と運営。話題になっている本の紹介。その他、図書に足を運んでもらえるための働きかけ（校内掲示・紹介など）。 ②調べ学習における書籍の準備・収集。 ③「朝の10分間読書」を正副担任の指導のもと実施。	①図書貸出冊数と生徒の利用状況。 ②授業における図書館利用回数。 ③アンケート結果。	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果 課題	○活動が制限される中、生徒の中で自発的にイベントを企画する声が上ががり、行うことができた。読書週間にクイズラリーを実施したり、館内での絵本の企画展示を行ったりした。 ・○授業での調べ学習において、教科担任の先生方と連携して、密を避けた館内利用、利用しやすい資料の準備など行うことができた。 ▲昨年に比べ、生徒の図書館利用が大きく減少した。感染症流行の中での情報発信の方法を考えていく必要がある。	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	・生徒が図書館活動に興味・関心をもつような企画ができるよう、情報を発信していきたい。今年度は、生徒発信の企画を行うことができたので、今後も生徒目線に立ち、多くの生徒が図書館に親しみを持てるような行事を企画したい。 ・今後の芸術鑑賞会の運営について、今年度行った職員アンケートの結果やご意見を参考にして、どのようなものにしていくか検討をしていきたい。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月18日

・生徒の探究活動の推進が非常に重要であると感じている。情報提供機関として積極的サポートを期待したい。
--

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <研究推進>

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標	「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇研究推進		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・アンケートの項目には該当なし。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・フィールド選択・科目選択の指導 ・地域課題探究型学習の企画・運営 ・本校の魅力の発信		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教育課程委員会 ・LHR・総合的な学習委員会		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) フィールド選択や科目選択の指導の確立 (2) 地域課題探究型学習の指導計画作成 (3) 学校説明会における本校の魅力の発信	(1) 科目選択の手引き (2) 授業の指導案作成 (3) 中学生の進路希望状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評 価	
①1、2年次生の科目選択指導を全職員で行い、科目登録を行った。	① 本校の教育目標に沿ったものか。	Ⓐ B C D	
②ベース時間割の改善を行い、各教科の先生に受け持ちのシミュレーションをしてもらった。	② わかりやすいものであるか。	Ⓐ B C D	
③中学生対象に、単位制の説明を行った。	③ 本校を希望する生徒が増えているか。	A Ⓑ C D	
11 成果・課題	○ 1年次生に対して、全職員の協力体制のもと、フィールド選択・科目選択指導を丁寧に行い、本登録までを行うことができた。 ○ 総合的な探究の時間における「探究活動」に関して、手探りではあるが、ひとつとおりに進めることができた。 ○ 自己管理のための「マイ手帳」を上手に活用する生徒が現れ、2年連続で外部の大会において受賞することができた。 ○ 中学3年生対象の進路希望調査（1月）によると、本校を希望する生徒は、学年制最後の3年前と比べ、11%増であり、一定の成果を上げていると考えられる。 ▲ 科目選択の指導方法は、今年度の経験を生かしてさらに改善していきたい。また、3年次まで単位制がそろそろ来年度のシミュレーションを進める必要がある。 ▲ 探究活動は、感染症拡大予防のため、当初の計画を休止、変更せざるを得なかった。この状況下で実施できる方法に代替し、地域の方の協力を得ながら進めていきたい。		総 合 評 価 Ⓐ B C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・科目選択の指導法や「探究活動」の支援のしかたについては、先生方からの意見を集約し、さらに改善していく。 ・「探究活動」について、地域との連携を深め、対面しない形での実施を模索していく必要がある。 ・1年後のベース時間割をさらに改善する方向で動いている。また、新カリに向けて選択科目やベース時間割の検討を始めていきたい。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月18日

「探究学習」で展開している内容は、主体性や発信力を持つ子どもを育てるのにとっても有効である。探究活動に取り入れられているKJ法、KP法、QC活動は社会で活用する思考法であり、またラテラルシンキング、アセスメントなど積極的にトレーニングしている点に大きな意義がある。能力差が大きくなっている現状で、ICT活用など新しい方法を考えていく必要がある。